

2012/04/03

2012 年度新入学生を迎えるにあたって

公立大学法人山梨県立大学長 伊 藤 洋

今日、ここに山梨県知事代理平出^{わたる} 亘 副知事、山梨県議会浅川力三議長をはじめ山梨県内各界の代表のみなさまのご列席を賜り、国際政策学部 95 名、人間福祉学部 87 名、看護学部 101 名、以上 3 学部合計 283 名、および大学院看護学研究科看護学専攻修士課程 12 名、総数 **295** 名の新入学生を迎え、第 8 期入学式が挙げてきますことは、私ども教職員ならびに在学生にとりましてこの上ない大きな喜びでございます。また、新入学生諸君を今日まで育てこられたご家族をはじめ全ての皆さんに、心からお慶びを申し上げたいと存じます。

さて、本年度の山梨県立大学の入学試験は競争倍率がここ数年では最も高く、文字通りみなさんは「狭き門」から本学に入学されました。それだけに、今日の好き日を迎えられたことにお喜びも一入ではないかと拝察いたします。

ところで「狭き門」といえば、新約聖書『マタイ伝』第 7 章第 13 節を連想します。そこには「狭き門より入れ、滅にいたる門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。生命にいたる門は狭く、その路は細く、之を見出すものは少なし。」とあります。

聖書のこれに先立つ第 8 節には「求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。すべて求むる者は得、たづぬる者は見だし、門をたたく者は開かるるなり。」ともあります。

しかし、「門」を叩けと言われてもどう叩けばよいのかよく分かりませんね。そこで、今日は、近年になって「門」を激しくたたいて、文字通り「狭き門」を潜り抜けた人々の話をして、皆さんへの歓迎の言葉にかえたいと思います。

工業社会が成熟し、それが爛熟して成長が止まったとき、その後には脱工業化社会（Post Industrial Society）と言われる社会が来るであろう、と最初に予言したのは 1962 年アメリカの社会学者ダニエル・ベルでした。彼は、物財の生産からサービス部門へと経済活動の重心が移行していき、やがて「知識（Knowledge）」が社会の「中軸原則（Principle axis）」となっていき、それに合わせた制度改革や政策形成が急激に起こるであろう、と語りました。ベルのこの予言は見事に当たって、1970 年代に入ると欧米先進国、少し遅れて日本がいわゆる「情報社会」と言われる、いま皆さんが目にあたりにしている社会へと変化していきました。

情報社会を突き動かす神経網の中でシナプスの役割を果たしたのがコンピュータやパケットルーターであり、その神経線維の役割を果たしたのが光ファイバーなどの情報ネットワークです。これらが無ければ脱工業化社会、つまり情報化社会は実現できませんでした。

そこで話の始まりをウィリアム・ショックレーといういささか風変わりな男の話から始めましょう。

ショックレーはみなさんもお存じの「トランジスターの発明者」であり、それによってベル電話研究所の同僚二人と共にノーベル賞を受賞した大変な秀才でした。ただ少し風変わりな考え方の持ち主で公民権運動に異を唱えるなど人種差別に熱心な人でした。この男が、古巣のベル研究所をやめて故郷のカリフォルニアに凱旋して、ショックレー半導体研究所という会社を作ったのは 1955 年のことでした。

会社を設立すると、この先端技術企業にコミットしたいと考えたキラ星のごとき優秀な若者が全米各地からカリフォルニアに集まってきました。ところが当の CEO のショックレーは企業経営の才覚はまるで無い。設立時に投資してもらった資本金を瞬く間に使い果たして 5 年後にはきれいさっぱり倒産してしまいました。

集まった秀才達は途方にくれました。しかし、「捨てる神有れば、拾う神あり」、アメリカ東部のエリート企業フェアチャイルド社が全員を雇い上げてフェアチャイルドセミコンダクター Inc という会社をカリフォルニアに設立してくれました。この会社は、またたく間に世界の半導体産業を

牽引するリーディングカンパニーに成長しました。

それまで半導体材料として主に使われていたゲルマニウムを放棄して、今日主流のシリコンを使うようにしたのもこの会社。また固体の集中部品であったトランジスターを平面回路として現在の IC (Integrated Circuit) = 集積回路を発明したのもこのフェアチャイルドセミコンダクター社でした。これらを革新技術を開発したのはショックレー半導体研究所で失業したロバート・ノイスなど 8 人組の若者たちでした。この集積回路技術が無ければ現在の情報社会の技術基盤は実現していなかったことでしょう。

ところが、この親会社フェアチャイルド社は東部のエリート企業。格式が高く、社員の着るものは背広にネクタイ着用、決まりが煩くて革新激しい先端企業の第一線エンジニア達にとっては面白くない。ついにこの会社のエリート技術者、といってもまだ 30 代の若者達ばかりだったのですが、そのうちの 8 人、例のショックレー半導体研究所で失業したロバート・ノイスを中核とする人達がついに脱走してしまいました。フェアチャイルドから逃げ出した複数の若者達という意味で彼らのことを「フェアチルドレン」とあだ名する人たちがいて、今では歴史の本にもそのように書かれています。

これら 8 人のフェアチルドレンが作った会社が「インテル」です。1968 年のことでした。「Intel Inside」、いま世界のパーソナルコンピュータの CPU を独占している超一流企業です。

しかし、インテル社に IC を作れる技術があってもその技術で何を作ることが決まらなければ宝の持ち腐れです。そこにおあつらえ向きの話が日本から飛び込んでいきました。

当時、日本では卓上計算機=電卓が売れっ子商品でした。国内に 10 社をこえる多数の企業が争って電卓を生産していましたが、段々競争が厳しく、新しい機能を付け加える度に生産ラインまで取り替えるというので利益が出ない。そこで一度集積回路でハードウェアは作って、後からソフトウェアで機能を追加していくことができないかと考えた人がいました。1971 年、ビジコン社という会社の技術者だった嶋正利さんと言う人でした。嶋さんの提案は今で言う 4bit マイコンでした。これが intel 4004 というま

ぼろしのマイクロコンピュータです。

インテルはこの 4004 に全力を挙げて開発に取り組みましたが、結果は失敗でした。というのは嶋さんの会社がつぶれてしまったからです。しかし、この計画を知ったライバル企業セイコー社がインテルに 8bitCPU の開発を持ちかけます。この企画はインテル社にとって宿命的な出会いとなりました。これも最終的に市場に出ることはなかったのですが、後に 8bitCPU Intel 8008 として見事に結実致しました。これを使った NEC PC8000 は当時日本でベストセラーになりました。

こういう動きに目ざとく目をつけた人が少なからずいましたが、中でもビル・ゲーツとポール・アレンという二人の高校 3 年生、それにスティーブ・ジョブズとスティーブ・ウォズニアックというそれぞれ 20 歳と 25 歳の青年らは、それぞれ 75 年と 76 年に相次いでベンチャービジネスを興しました。ビル・ゲーツらはマイクロソフト社を、スティーブ・ジョブズらはアップル社をそれぞれ創業しました。つまり、彼等こそ、この画期的な商品の文字通り「狭き門」をくぐって、広大な社会空間を創造した冒険家・開拓者と言ってよいでしょう。

アップル社を創業したスティーブ・ジョブズは昨年 10 月 5 日、世界中の人々から惜しまれつつこの世を去りました。その 6 年前の 10 月、スタンフォード大学卒業式の記念講演で卒業生ら数千人を前にして行った記念すべきスピーチがスタンフォード大学の公式ページに残っています。そのスピーチの最後の部分、癌を知らされた後の死に対する思いを語った部分を取り出して紹介しましょう。

「(癌の発病と治療を) 通して、死がただの概念だった頃より、確信をもって言えることがあります。『誰も死にたくはない』ということです。天国に行きたい人でもそのために死のうとはしない。

しかし、死はすべての人の終着点であり、誰も逃れたことはないし、今後もそうあるべきである。なぜなら、死は生命の最大の発明なのだから。死は古き者を消し去り、新しき者への道をつくる。ここでの「新しき者」とは君たちのことです。

しかしそう遠くないうちに君たちも「古き者」となり消えていきます。

大袈裟ですみません、しかし紛れもない事実です。あなたの時間は限られています。無駄に他人の人生を生きないこと。

ドグマに囚われないでください。それは他人の考え方に付き合った結果にすぎません。他人の雑音で心のかき消されないようにしてください。そして最も大事なのは自分の直感に従う勇気を持つことです。直感とはあなたの本当に求めることを分かっているものです。それ以外は二の次です。」

こう述べた後でジョブズは、若い頃に読んだスチュワート・ブランドらが刊行した『全地球カタログ』という本の話をした後に、その最終巻の裏表紙にあった言葉「Stay hungry, Stay foolish」という言葉を紹介した後で、

「私も常々そうありたいと思っています。そして今、新たな人生を踏み出す君たちにも、そう願っています。『Stay hungry!, Stay foolish!』と」

以上一連の話は、若者たちが「狭き門」から入って世界の構造を変えていった現代史です。いま、日本は大きな曲がり角にいます。その端的な証拠が、大学を出ても就職できない、という深刻な事態であります。本学は幸い全国トップクラスの就職率を誇っていますが、それとてただ単に既存の会社や組織に職を求めるのではこれを「狭き門」とは言いません。みなさんには、シリコンバレーを創り上げた若者たちのように、「就職」するだけではなく、職を創る「創職」の気概を持って4年間を学修して頂きたい。

だから、私もスチュアート・ブランドから拝借して、みなさんに期待を込めて「食欲であれ、バカであれ！ Stay hungry! Stay foolish!」と呼びかけたいと思います。

「Stay hungry! Stay foolish!」ご清聴有難うございました。